

居宅介護支援事業所たより

もりよし荘居宅の庄司です。今回は地域包括ケアシステムについての記事です。

要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける事ができるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援などのサービスを日常生活圏域（自宅から30分以内）で一体的に提供することを指す「地域包括ケアシステム」の構築が

進められています。

地域包括ケアシステムを解説する絵があります。（図参照）

この植木鉢の「葉」の部分は専門職の提供するサービスとなります。サービスの需要増加に備える（葉を育てる）為には「鉢」、住まいと住まい方がしっかりとっていないければなりません。栄養の多い「土」も必要です。この「土」とは介護予防・生活支援になります。介

護保険外のサービスや地域の支えが充実していなければ、専門職が専門性を発揮できません。つまり、「葉」が育たないという事です。これら全ての基礎として本人の選択と本人・家族の心構えが「皿」として求められます。この構図が地域包括ケアシステムになります。多くの専門職が一つのチームとなり、皆様の望む生活が送れるようサポートさせていただきます。

【もりよし荘居宅介護支援事業所】
Tel: 0186-72-5033 庄司信子

手洗いは時間をかけて

例年、感染症流行の時期前に予防研修を行っております。今回は専用機器をお借りして、手洗いについて研修しました。

専用のクリームを手の隅々まで塗り、手を洗います。その手を特殊な光に当てると洗い残しが光ります。



洗い残しが白く光る

寄付・善意

九嶋 一様 田中 一雄様 栗原 保幸様
イツキ株式会社 仙台営業所様
医療法人社団 宝樹会様 Aコープもりよし様

慰問・ボランティア

比内支援学校たかのす校様
日赤北秋田市森吉赤十字奉仕団様

【入所】
【通所リハビリテーション】
ご利用者様受付中！！
お気軽に施設見学等
ご相談ください。
TEL: 0186-72-5030



地域包括ケアシステムの植木鉢

編集後記

冬の寒さも和らぎ、秋田にも少しづつ春の足音が聞こえてきました。

今年は天皇陛下の御退位と皇太子殿下の御即位がある為、平成最後の年となります。平成30年間本当に色々なことがありました。

その中でも一番大きい出来事と言えばやはり東日本大震災だと思えます。戦後最悪の被害をもたらした日本中を悲しみの渦に巻き込みました。

大震災の時はもりよし荘でも停電になり利用者・職員ともに不安な毎日を経験しましたが、利用者の皆さんも職員の皆さんも協力し合って厳しい状況を乗り越えることが出来ました。

今年の春から新しい年号になります。新しい年号はどのような時代になるのか不安と期待でいっぱいですが、できれば皆が笑顔でいっぱいになるような時代になればと節に願っています。

(K・T)

もりよし荘だより



編集・発行
〒018-4301
秋田県北秋田市米内沢字七曲25番地
(社会福祉法人 交楽会)
介護老人保健施設 もりよし荘
TEL.0186-72-5030 FAX.0186-72-5017
http://www.aki-ta-kouraku.jp/

NO. 17

平成31年4月1日



雛飾りも今年の役目を終え
暖かい日が多くなりました。
春はすぐそこです...

12月クリスマス会が各ユニットで行われた。全国的に流行している感染症の予防の為、全体的なクリスマス会は行わず、各ユニットで趣向を凝らしたクリスマス会が行われた。

サンタとトナカイに扮した職員が登場し利用者の皆さんにプレゼント配ったり、クリスマスにちなんだ歌を皆で合唱したりされていた。「自分が幼い頃にはこんなに華やかな事はなかったが、



プレゼントを受け取る利用者

幼心を思い出し

～サンタからのプレゼント～



トナカイと一緒に登場するサンタさん

皆で歌っていると幼い頃を思い出す。昔を懐かしみながらもクリスマスを楽しまれている様子であった。

春を願うひな祭り

懐かしき思い出を語りながら



思い出話を語りながらひな壇の飾り付け

春の訪れを待ち望み雛人形が飾られた。3月3日は「ひな祭り」。女の子の健やかな成長を願い、綺麗な雛人形を飾ってお祝いをする日本の春の伝統行事。利用者の皆さんは昔のことを懐かしそうに思い出し、一人が語り始めると次々と皆が笑顔で話し始めた。小さい頃のことをうかがうと多くの利用者は「こんなに立派なひな壇は、うちにはなかった」と話す。また「桃の木には悪いものを払う力があるから、悪いこと全部払ってければいいな」と豆知識を披露する利用者もいた。あと何回みられるだろうかなどと笑いあい、写真を撮ってほしいとお願いされひな壇の前での撮影会が始まり。利用者の笑顔が少しだけ早い春の訪れを感じさせた。

大きな掛け声 元気に「豆まき」

無病息災

もりよし荘での毎年の恒例行事となっている節分の豆まきが、2月3日に各ユニットで行われた。それぞれのユニットで趣向を凝らし、鬼に扮した職員に向かって「それ、鬼は外！福は内！」と、自らの邪気を払い、無病息災を願いながら元氣よく皆で豆をまいた。「これで今年も元氣に過ごせるな」と、笑顔だった。



迫力満点の鬼に驚く利用者

平成最後の締め括り

力いっぱい職員と声援を送る利用者

12月28日、もりよし荘でもちつき会が開かれ、昔ながらに臼ときねを使ってついた餅をお汁粉にして味わった。施設では一年の最後を締めくくる恒例行事で多くの利用者がホールに集まった。餅つきは職員に利用者から大きな声で「よいしょ」「もっと腰を入れて」と声援が送られた。例年の行事で慣れた手つきの職員が掛け声に応えてきねを一生懸命ついていた。

平成最後のお正月

初日の出と共に新年を迎えた1月1日、もりよし荘の各ユニットではそれぞれの



カルタを楽しむ利用者たち



抹茶と和菓子を堪能する利用者



皆で協力しての書初め

1年の始まりに思いを馳せながら「やっぱり健康が一番だ」「書初めをするのが引き締まる思いだ」などと語り合っていた。

赤十字奉仕団

11月29日、森吉赤十字奉仕団の皆さんが来荘され、利用者と一緒に歌ったり楽しい踊りを披露してくれた。冬も近づき気温が低くなってきたせいか気持ち落ち気味だった利用者の皆さんも、踊りや一緒に歌うことで暖



華麗な踊りにつられて踊る利用者

かい気持ちになった様子。最後には盛大な拍手で「また来て欲しい」「今度はもっと一緒に歌って踊りたいな」など早くも次回の来荘を希望する声がかれた。

笑顔の語り合い

10月3日、比内支援養護学校中等部の生徒さん達との交流会が開かれた。手作りのプレゼントを貰ったり



みんなで記念撮影



プレゼントを受け取る利用者

生徒と語り合う最後には記念写真を撮った楽しいひと時だった。